

外国人が見た幕末日本

—オイレンブルク遠征隊を中心に—

オイレンブルク遠征隊は1859年、プロイセン(ドイツ北東部の王国)が日本、清、シャムとの修好通商条約締結のために派遣したオイレンブルク伯爵を全権使節とする遠征隊です。遠征隊は1860年に日本に到着し、1862年に帰国しました。プロイセンの東アジア遠征が最も注目を惹くのは、オイレンブルク遠征隊が優秀な科学者と芸術家とを参加させていたことで、日本研究において大きな貢献をなしました。オイレンブルク遠征隊メンバーの数人が旅行記や絵図集を出版しており、内田嘉吉文庫に収められています。



「江戸城の城壁と北門」(『Ansichten aus Japan China und Siam』/ Wilhelm Heine and Albert Berg 画 / 1864年) 日比谷図書文化館所蔵

2018年は明治維新150年の節目の年です。これを機会に内田嘉吉文庫に残されている、江戸時代の終焉に日本にやってきた絵師たちが描いた図録、挿絵を紹介します。

一級の外国人絵師が描いた図版から、外国人の目に映った当時の日本の様子をご覧ください。

2018年1月16日(火)～3月31日(土)

平日10:00～20:00 土曜10:00～18:00 日・祝10:00～16:00

※休館日:2月25日(日)、3月4日(日)～13日(火)、3月19日(月)

入場無料

日比谷図書文化館4階 特別研究室

幕末日本の姿を今に残した オイレンブルク遠征隊 —その外交目的と成果—

講師 福岡 万里子
(国立歴史民俗博物館准教授)

【講師略歴】

2011年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。
学術博士(東京大学)。日本学術振興会特別研究員PD
(東京大学史料編纂所)を経て、2014年4月より現職。専門
分野は、東アジア国際関係史、日本外交史、対外関係史
(日独・日蘭関係史)。著書に『プロイセン東アジア遠征と
幕末外交』(東京大学出版会 / 2013年)など。

1850年代から1860年代にかけて日本にやって
きた西洋の列強の遠征隊の中で誰かが真っ先に
思い浮かべるペリー提督率いる遠征隊に比べて、
オイレンブルク伯爵率いるプロイセンの東アジア
遠征隊の認知度は低いと言わざるを得ません。
本講座では、お抱えの絵師による優れた記録が今
に伝わるオイレンブルク遠征隊の外交面の目的や
成果について考察します。



オイレンブルク使節一行
(『Die preussische Expedition nach Ostasien』 /
Gustav Spiess著 / 1864年)
日比谷図書文化館所蔵

日時 2018年2月16日(金) 19:00~21:00 (18:30 開場)

場所 日比谷図書文化館4階 スタジオプラス(小ホール)



定員 60名(事前申込順、定員に達し次第締切) 参加費 1,000円(千代田区民・学生 500円)

※千代田区民の方、学生の方は住所の確認できるもの、学生証等をお持ちください。

参加申込

電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp)、またはご来館(1階受付)のいずれかにて、

①本講座名、②お名前(よみがな)、③電話番号をご連絡ください。

展示・関連講座に関するお問い合わせ

日比谷図書文化館 特別研究室

開室時間: 平日 10:00~20:00

(土曜 ~18:00 / 日・祝 ~16:00)

TEL: 03-3502-3340(館代表)

お問い合わせメールアドレス: laboratory@hibiyal.jp

千代田区立日比谷図書文化館

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4

開館時間: 平日 10:00~22:00 (土曜 ~19:00 / 日・祝 ~17:00)

Web: <http://hibiyal.jp>



交通アクセス

都営地下鉄三田線
「内幸町」徒歩3分

東京メトロ千代田線
日比谷線・丸ノ内線
「霞ヶ関」徒歩3分

JR「新橋」徒歩10分